

建築研究所ニュース



令和3年3月3日

カーボンニュートラル社会の実現に向けたメッセージ
～「省エネルギー建築のための設計ガイドライン」をとりまとめました。～

従来より、非住宅建築物を対象とする建築物省エネルギー法のための設計一次エネルギー消費量の評価方法については、国土技術政策総合研究所及び国立研究開発法人建築研究所が中心となって整備してきたところです。今般、建築研究所では、このノウハウを活かし、建物外皮、空気調和設備、照明設備、換気設備、給湯設備等に関する省エネルギー設計及び施工の方法をわかりやすく解説し、実務者、関連分野の研究者など産官学の連携により省エネ建築物の普及がさらに進むようガイドラインを策定しました（A4版、約240ページ）。

具体的には、省エネルギー設計のポイントとして、以下の11点を指摘するとともに、関係する留意点及び設計理論についてとりまとめました。

- 1) 空調設備の各構成部の容量設計は明確なルールに則って合理的に行うこと、
- 2) 空調設備の各部のエネルギー効率をより高いものとする事、
- 3) 空調設備の各部の部分負荷時のエネルギー効率向上のための対策をとること、
- 4) トイレや機械室等の換気が同じ階の居室の換気に及ぼす影響を最小限とすること、
- 5) 外気取入れ量安定化の対策をとった上で、デマンド換気により換気負荷を低減すること、
- 6) 竣工前に風量・流量の量及びバランスの調整、送風機・ポンプの出力調整を行うこと、
- 7) 外皮断熱性の確保による特に冬期の室内温熱環境分布の均一化を図ること、
- 8) 外皮気密性の確保を図ること、
- 9) 高効率照明器具、タスク・アンビエント照明及び昼光利用制御の採用、
- 10) 給湯需要の多い建物における中央式給湯設備の効率化の工夫、
- 11) 再生可能エネルギー源の導入。

ダウンロードURL

<http://www.kenken.go.jp/japanese/contents/publications/data/202/index.html>

（内容の問合せ先）

国立研究開発法人 建築研究所
所属 環境研究グループ
氏名 赤嶺嘉彦
電話 029-864-6683（直通）
E-mail akamine@kenken.go.jp